

2019 11/26

No.2103

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
—神奈川政経懇話会—



冬の夜空を彩るイルミネーション「ヨコハマミライト」が横浜・みなとみらい21（MM21）地区で14日始まった。ケヤキや桜などの並木に施された約50万個の電飾が街をロマンチックに演出。来年2月16日まで



## contents

視点・点描	3
「懸念」の根拠 検証を	
デモクラシーの現場から	4
首相のやじと桜を見る会	
国際	6
民主化の一線を越えた香港デモ	
北京は武力介入しない	
農業	8
牛から出る温室効果ガスを研究	
環境への負担軽減目指し	
くらし2019	10
社会保障はどうするか	
アジアの風	12
社会の責任か、自己責任か	
NNAアジア経済リポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

◇2019年12月定例講演会  
12月12日(木)午後2~4時40分  
(▽講演会:午後2時~▽社内見学:3時10分~▽交流会:3時40分~)  
京急グループ本社ビル(横浜市西区高島1-2-8)  
講師は京浜急行電鉄取締役社長の原田一之氏  
演題は「地域と共に歩んだ120年~京急グループ新本社・横浜移転にあたって~」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ([www.kanagawa-seikon.jp](http://www.kanagawa-seikon.jp))に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局☎045(226)2121。

# 視点 点描



## 「懸念」の根拠検証を

10月27日から11月4日まで川崎市麻生区で開催された「KAWA SAKIしんゆり映画祭」。従軍慰安婦問題をテーマにしたドキュメンタリー映画「主戦場」の上映が、いつたん中止と発表され、その後、多くの抗議を受けた結果、最終日に上映された。このところ、こうした芸術祭をめぐり行政側の介入が問題視されるケースが相次いでいる。

今回の上映中止のきっかけは、「主戦場」が出演者の一部から訴されている映画であることから、共催の川崎市が映画祭事務局に「裁判になつてているものを上映するのはどうか」との「懸念」を伝えたことだ。事務局は苦情の電話などが寄せられた場合にスタッフでは対応しきれないとして中止を決めた。それに対し、上映中止と言わざるを得ない。

(神奈川新聞社川崎総局長)

は表現の自由の侵害だとして映画関係者などが抗議の声を上げ、その声に押される形で改めて上映が決まった。そして終わってみれば、最終日の上映は盛況で、警備上も目立った混乱はなかつた。

川崎市は、「懸念を伝えたことは問題はない。映画の内容について言つたことはなく、表現の自由の侵害にはあたらない」と説明する。事務局も「市からの連絡は圧力と受けとめていいないと話す。

行政からの意見は、とかく忖度

されやすい。そして、作品の内容に注文をつけなければ表現の自由は侵害していないといふのは間違いだ。本来行政には積極的に表現の自由を守る責務がある。抗議原告などに屈することなく、むしろ不当な抗議から発表者を守るすべを考えるのが役割だろう。

問題なのは、市の懸念も、事務

局の判断の理由も、「上映して何かトラブルが起きたら困る」という考えに起因していることだ。こ